



ポール・セザンヌ《大きな花束》(1892-95)の展示風景
東京国立近代美術館



アンディ・ウォーホル《マリリン》(1967)の展示風景
(鳥取県立博物館「ニューヨーク・アートシーン」展・2019)



中ハシクシゲ「ZERO Project SUISEI-43」(2007)の
バーニングの様様

作品を収集し、後世に伝えることは美術館にとって最も重要な仕事の一つです。一方で公立美術館として税金を用いて作品を収集する以上、そこには作品に対する見識と収集にあたっての透明性と公正さが必要とされます。

美術館応援団を対象としたセミナーの二回目では、美術館のコレクションの問題を取り上げます。新しい県立美術館では博物館のこれまでの収集方針をさらに広げ、近現代の優れた美術についても積極的に収集を続けていく予定です。県立美術館ではどのような手続きを経て作品を収集し、コレクションを形成していくのでしょうか。今回のセミナーでは作品収集とコレクション形成の具体的な手法について説明するとともに、コレクションという活動が直面する様々な問題についてもお話ししたいと考えています。

[鳥取県立美術館の収集方針]

1. 鳥取県の美術

- (1) 鳥取県に関係した近世以前の美術作品
- (2) 鳥取県にゆかりのある近代作家の美術作品
- (3) 鳥取県にゆかりのある現代作家の美術作品
- (4) 鳥取県の自然や風物などを題材にした美術作品
- (5) 郷土作家とつながりをもつ国内外の作家の優れた美術作品

2. 国内外の優れた美術

- (1) 江戸絵画の多様性を示す優れた作品
- (2) 近代(明治～戦前)における各分野の参照点となる優れた作品
- (3) 戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品
- (4) 館の内外に半恒久的に設置する作品

3. 同時代の美術の動向を示す作品

連続セミナー 基礎編 / 「美術館とは何か」開催スケジュール (予定)

01 美術館の過去と現在、そして鳥取県立美術館 5月29日

02 拡張する美術館、拡大するコレクション 7月20日

03 展覧会 選ぶことと並べること 9月中旬

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。